2016年9月21日　日本食糧新聞　2面

日米欧、用途の違いで未開発分野

尾形浩一新田ゼラチン社長 コラーゲン市場、可能性を示唆

新田ゼラチンの尾形浩一社長は14日、「世界のコラーゲン市場は2万5000tと推定され、日米欧の市場で美容、栄養、関節とそれぞれ用途が違い、未開発分野がある」と今後の可能性を示唆した。機能性研究では機能性ペプチド「ウェルネックス」としてブランド化し、ブランド名と同じ名前でホームページを展開。皮膚、関節、骨、栄養など機能性研究の流れを独自サイトで閲覧できる。同社では10月4日に挙

新田ゼラチンの小泉聖子ペプチド事業部研究員によると、「2015年現在で世界の糖尿病患者は、世界に4億1500万人に上る。日本だけでも316万人で、予備軍まで含めると2050万人

小泉聖子ペプチド事業部研究員

コラーゲンペプチドの新たな機能性

糖尿病改善に期待

研究最新トレンド記者説明会で、同ペプチドの新たな機能性として糖尿病への効果を紹介した。

糖尿病のヒト臨床試験（N＝60人）で、12週間摂取後、血糖上昇抑制効果があることが分かった。またそのメカニズムとして、血糖を低下させるために膵臓からインスリンを分泌させるホルモンGLP－1を不活化する酵素「DPP4」の働きを阻害しインスリン分泌が促進し血糖値が低下することも分かった、という。しかも薬として摂取するよりも食品から摂取した方が効き目も穏やかでより安全だ。

摂取量減でも効果

さらに従来よりも摂取するグラム数を減らしても少量で保湿性やシワ、肌の弾力や張りが戻るなどの美容効果なども発表されている。従来コラーゲンペプチドは1日5gが推奨されていたが、3gでもさまざまな効果が確認されており、今後はカプセルや打錠などさまざまなアプリケーション開発が増え、高齢者でも飲みやすい商品が誕生する可能性が高い。

シワについてもヒト臨床（N＝71人）でシワ、保湿、弾力性や張りを調べた。12週間摂取後、目尻のシワを有意に減少させた。保湿に関しては6週間で優位性が可視化できている。

このほかにも関節痛の改善や床ずれの傷縮小化に関しても、ヒト臨床試験で発くべきコラーゲンペプチドの機能性に関する結果が得られている。

同社は10月4日、東京でシンポジウムを開催し、専門家を招いてコラーゲンペプチドの新たな機能性について紹介する。（江端哲也）

新の機能性研究事例を紹介する。

同社が2000年に上市したコラーゲンペプチドは当時約100tの需要があり、その後、国内でパウダーやドリンク、ゼリーなどに幅広く使用され近年は5000～5500tとほぼ行き渡り、ここ数年は飽和状態だった。13年には新たにタブレットなどにも活用されるが大きな拡大は期待できなかった。昨年から始まった、機能性表示制度の後押しもあり、アルコールフリー飲料やヨーグルトなど一般食品にも拡大し、15年は5年ぶりに拡大傾向にあり、600tを視野に入れるまでに成長している。

同社が扱うゼラチンペプチドの市場は拡大傾向にある。アジアでは美容用途に、北米やインドでの栄養や関節用途、国内でも美容用途を中心にした機能性に寄る市場の活性化が期待される。

同社ではこれまで外注をしてきた米国の豚ゼラチンの生産を今春新工場を建設し、自社生産に切り替え拡販する予定だ。（江端哲也）

仲間には、動物や魚から得られる三重らせん構造のタンパク質「コラーゲン」と、そのらせんを一本ずつに解いた「ゼラチン」、さらにそれを細かく切った「ペプチド」がある。

インバウンド需要の効果や健康食品用途の拡大などもあり、ゼラ